

2. 介護補助の導入とその効果

堺市医師会介護老人保健施設いずみの郷
介護福祉士 瀬島大樹（せじま だいき）

<背景>

当施設の問題として介護士の業務圧迫があり、残業や業務のストレスによる離職等の問題を改善する必要があるとして、どのような改善を行っていくかを検討。その一つとして「介護補助」の導入を実施するに至る。

<考察の目的>

「介護補助」の導入に伴い、介護士の業務がどう改善したのか。施設内の環境変化について、現在の状況を現場の介護士の視点から考察し、この制度の実用性・効果について明らかにする。

<介護補助業務に移行した介護士業務>

- ・ベッドメイキング ・定期的なリネンの交換 ・口腔セットの清潔管理
- ・居室内清掃 ・汚物室清掃 ・車椅子清掃 ・浴室清掃 ・備品の補充
- ・衣類や洗濯物の片付け ・入浴準備と誘導 ・食事の下膳やテーブル拭き
- ・施設内消毒 ・配茶の提供と片付け ・花壇の水やり etc. …

<結果>

効果

- ・多くの利用者へ余裕をもった対応が可能に
- ・マンパワーが増えた事により業務の幅が広がる
- ・残業の減少
- ・雇用できる層の拡大

課題

- ・介護士と介護補助の連携
- ・人員増に伴うヒューマンエラー対策
- ・業務量の調整

<まとめ>

制度の導入により非常に良好な結果を得られ、介護士の業務改善につながったといえる。介護士の業務負担は大幅に軽減され、時間に余裕が出来る事でストレスの緩和と残業時間の減少に成功。マンパワーが増えた事により従来では特定の曜日に集中していた業務も分散して行えるようになり、より効率的な時間の使用が可能になった。また、人の眼が増えた事で利用者の訴えや変化に気づきやすくなり、見守りや利用者対応にも良い効果が得られた。一方課題として、職員が増えた事による連携ミスやヒューマンエラーの増加、割り振る業務量の調整などが必要となる。しかし「介護補助」という制度から生じるデメリットは発見できず、本制度は介護士の業務改善において非常に有効であるという結果を得る事が出来た。